

トップページ: <http://mylibrary.maeda1.jp/>

ブログ「石油と中東」(日本語): https://blog.goo.ne.jp/maedatakayuki_1943

マイライブラリーNo.: 0556

2022.3.10

(注)本稿は 2022 年 3 月 5 日から 9 日まで 3 回にわたりブログ「中東と石油」に掲載したものです。

ロシアの天然ガスはどこに流れ、エネルギー価格はどうなるのか？

1. はじめに

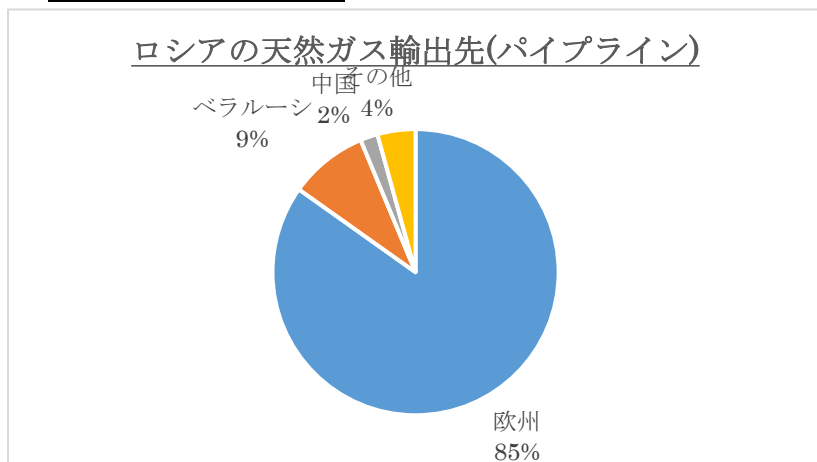
ロシアのウクライナ侵攻により同国と西欧諸国をめぐる天然ガスの貿易問題がクローズアップされている。同国は世界最大の天然ガス埋蔵量を誇っており、生産量も米国に次いで世界第2位である(bp 統計による)¹。生産される天然ガスは国内消費を除きその多くが西欧に輸出されている。西欧各国にとってもロシアは最大の輸入国であり、両者は天然ガスに関して切っても切れない関係にある。この事実がウクライナ問題を複雑にしていることは間違いない。

本稿では英国石油企業bp社の「bp Statistical Report of World Energy 2021」によりロシアと西欧諸国の天然ガス貿易の現状を概観し、合わせて今後の石油・天然ガス市場の動向を推察しようとするものである。

(ヨーロッパ向けに輸出の 8 割を依存！)

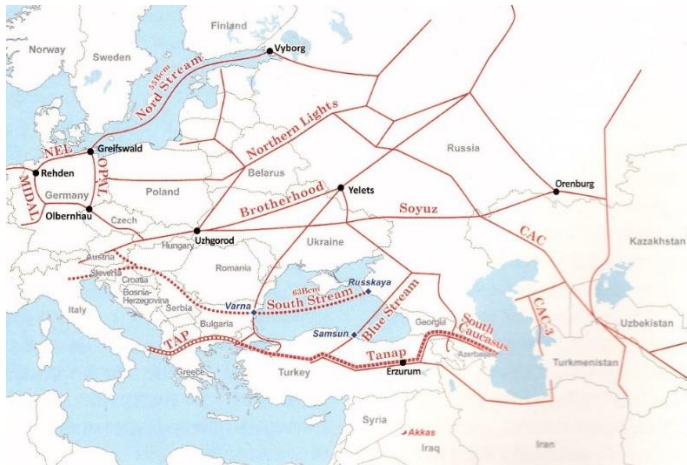
2. ロシアの天然ガス輸出先

(1) パイプラインによる輸出



ロシアとヨーロッパ諸国間には多くの天然ガスパイプラインが敷設されている。古くからあるのがウクライナを通過する Soyuz、Brotherhood ライン、あるいはベラルーシを通過する Northern Lights ラインであり、新しくはバルト海を経てドイツに至る海底パイプライン Nordstream1 がある。その他最近では黒海を横断する South

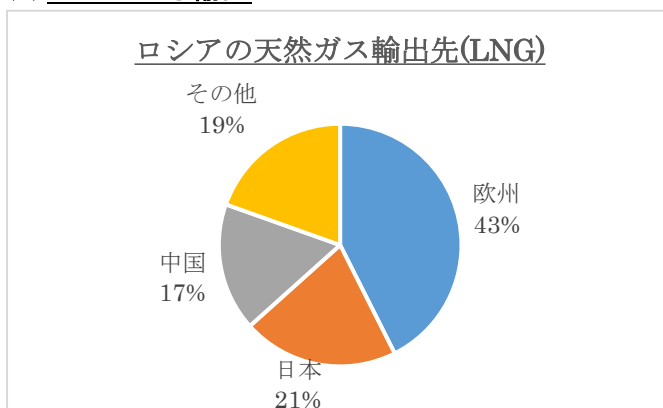
Stream ラインのほか、完成しているが未稼働の Nordstream2 もある(下図参照)。



(JOGMEC 作成、2013 年 7 月)

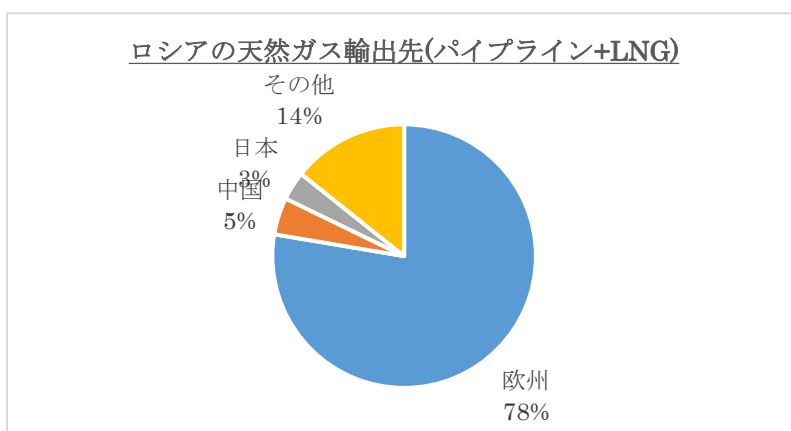
BP 統計によればロシアのパイプライン天然ガス輸出総量(2020 年)は 1, 977 億立法メートル(以下 m³)であり、仕向け先は欧州が 1, 677 億 m³、ベラルーシ 176 億 m³、中国 39 億 m³、その他が 85 億 m³である。全体の 85%が欧州に輸出されていることになる。

(2) LNG による輸出



最近では液化天然ガス(LNG)の輸出量も増加している。LNG の輸出量は 404 億 m³であるが、その内訳は欧州 172 億 m³(43%)、日本 84 億 m³(21%)、中国 69 億 m³(17%)、その他 79 億 m³(19%)となっている。

(3)パイプラインと LNG 合計輸出量



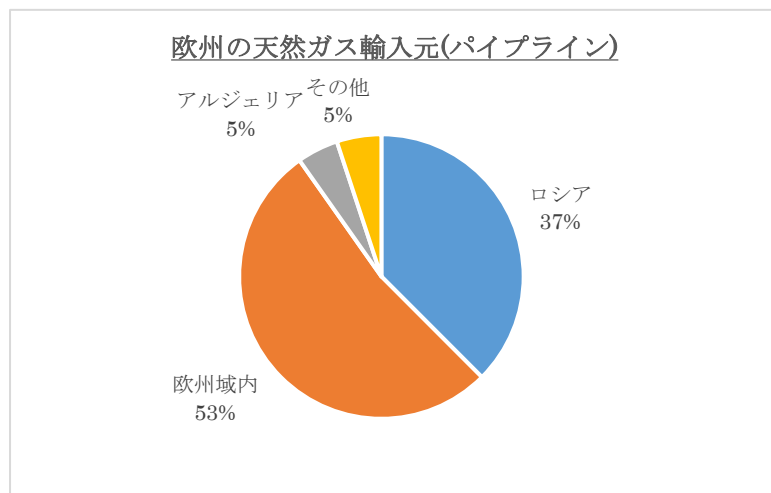
パイプラインと LNG を合計した輸出量では西欧向けが 1, 849 億 m³で全体の 78%を占めており、中国向け 108 億 m³、日本向け 84 億 m³を大きくしのいでいる。ロシアの天然ガス輸出はほとんどが西欧向けなのである。

(域内で 4 割を調達、ロシアに 3 分の 1 を依存！)

3. 西欧諸国の天然ガス輸入相手国

ロシアの西欧向け輸出に対し、一方、西欧諸国の輸入動向(2020年)は以下のとおりである。

(1)パイプラインによる輸入

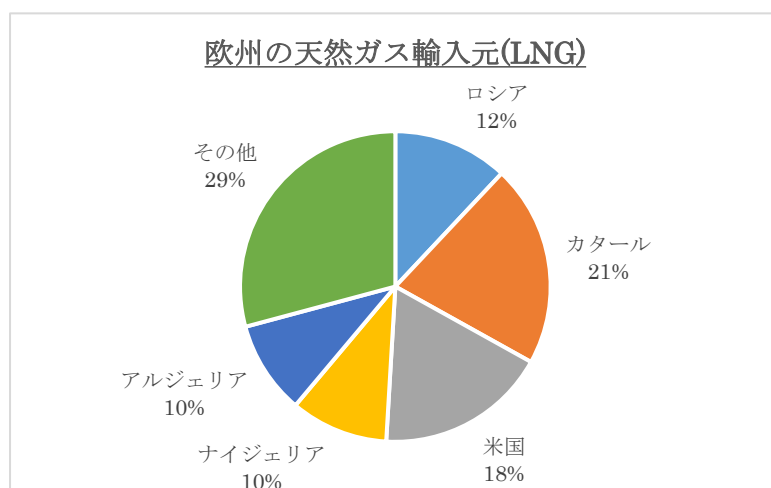


オランダでは古くから天然ガスを産出しており、また最近ではノルウェーの海底油田から石油・ガスが産出されている。かつてはこれらの天然ガスで域内の需要を全量賅っていたが、消費拡大により域外のロシア或いは北アフリカ(アルジェリア及びリビア)からパイプラインで不足量を調達しているのが現状である。

2020年のパイプラインによる輸入量は欧州域内産出分が53%を占めているが、これに次いでロシアからの輸入が37%

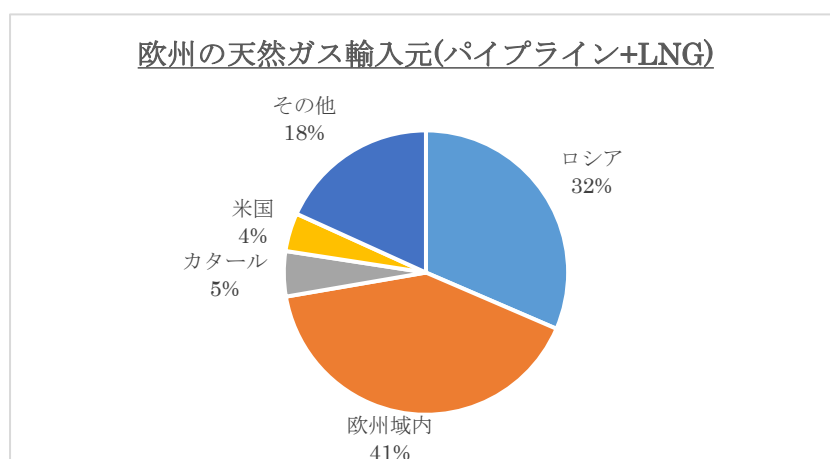
に達しておりロシアの存在感は大きい。欧州域内、ロシアに次ぐ供給先はアルジェリアの5%である。

(2) LNG による輸入



欧州の LNG 輸入量は 1, 148 億 m³ であり、最も多いカタールからの輸入が全体の 21%を占め、次いで米国のシェアが 18%である。ロシアはこれら 2 カ国に次ぐ第 3 位でそのシェアは 12%である。さらにナイジェリア(10%)、アルジェリア(10%)と続き、その他各国が 29%を占めている。ロシアの LNG シェア(12%)はパイプラインのシェア(37%)に比べて小さい。

(3) パイプラインと LNG 合計輸入量



パイプラインと LNG を合計した輸入量は 5, 619 億 m³ であるが、このうち欧州域内が 41%を占めている。域外ではロシアが 32%であり、カタールは 5%、米国 4%である。域外ではロシアのシェアが際立って大きい。

4. 今後の石油・天然ガス市場の動向



天然ガスを軸としたロシアと欧州諸国の相互依存関係は非常に大きい。ロシアはパイプラインとLNGを合わせた輸出の8割を欧州に依存し、一方、欧州諸国は必要とする天然ガスの3分の1をロシアからの輸入に依存している。比率を見る限りロシアは欧州への依存率が高い。これに対して欧州は域内の生産量がかなりあり、また米国、カタールなどロシア以外からのLNG輸入を拡大しているため、ロシアへの依存度はさほど高くない。(今回の問題がなければ、

Nordstream2 や北極圏ヤマル・プロジェクトなどロシアからの輸入が増加し、欧州のロシア輸入依存度はさらに高くなることは間違いないであろうが。)

但し現状で見ても8割と3分の1というそれぞれの依存度は決して小さくはない。因みに同じbp資料によれば、ロシアの石油輸出の53%は欧州向けである。今回のロシアのウクライナ侵攻により仮に石油・天然ガス貿易が中断すれば双方とも大きな犠牲を強いられるであろう。現実には民間企業ベースではShell、bp、エクソンモービルなどが早々とロシアからの撤退を表明している。



一方で欧米政府はロシアの大手銀行を国際決済制度(SWIFT)から排除したが、最大手のズベルバンクやガスプロム系のグループ銀行を残したことはドイツなど西欧諸国のジレンマと言えよう。また OPEC+(プラス)でロシアはサウジアラビアと共にリーダーであるが、このことがエネルギー価格の高値継続に結び付くと考えられる。最近の価格高騰に対して、米国、IEAなどは産油国に増産を促してきたが、ロシアにとって増産は敵に塩を送るだけで得るものは何もない。そしてサ

ウジアラビアはこれまで米国や欧州諸国に配慮して OPEC+内部で増産幅の拡大(または減産幅の縮小)の音頭を取ってきたが、OPEC+の結束を維持するためには現在のところロシアに歩み寄る以外に手は無いはずである。3月2日の OPEC+閣僚会議(リモート方式)で40万B/Dの追加増産という従来方針継続にとどまったことでもそのことは明白である。高騰するエネルギー価格を冷やすために蛮勇を振るうことができる者が誰もいないのが現状である。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

1 レポート「世界の石油と天然ガス：bpエネルギー統計 2021年版」参照。